

## 第2期芦別市まち・ひと・しごと総合戦略

芦別市総務部企画政策課まちづくり推進係

### はじめに

芦別市は北緯43度、東経142度と北海道のほぼ中央に位置し、東西に24.96km、南北に48.65km、面積は865.04km<sup>2</sup>にも及び、全国の都市部の中でも広大な面積を有します。そのうち、約88%は森林であり、南東から北西にかけて空知川が流れ、豊かな自然に恵まれており、1年を通して四季の変化が明瞭な地域です。また、観測開始から震度4以上の地震がないなど自然災害の極めて少ない街です。気候は大陸性で年間平均気温は7.9℃と温暖ですが、降雪量は多く、年間降雪量は約5m、最深積雪は約1mに達します。

市内には、JR根室本線が通っており、国道が2路線と道道が11路線あり、札幌方面、旭川方面、帯広方面の道内各主要都市を結ぶ地点に立地しています。

人口推移については、市制施行後の1958（昭和33）年の75,309人をピークに減少に転じ、基幹産業であった炭鉱産業の衰退とともに人口流出が急速に進み、1969（昭和44）年には5万人を割り込むまで減少し、その後、人口減少のスピードは鈍化しますが、減少傾向は変わらず、令和2年国勢調査における総人口は

12,555人（令和4年11月末現在の総人口は12,004人）となっています。

### 星の降る里あしべつ

全国の都市部の中でも広大な面積を持ち、その大半が森林に囲まれているため、美しい自然と澄み切った空、降るように美しい星がまたたく夜空といった自然環境を生かし、星の持つ無限の愛とロマンに着目した観光のまちづくりを目指し、1984（昭和59）年12月に「星の降る里」を宣言し、その後、1987（昭和62）年8月に行われた環境省（当時の環境庁）が開催する「全国星空の街・あおぞらの街コンテスト」において「星空の街」として認定されて以来、「星の降る里」のキャッチフレーズは、観光の枠を超え様々な場面で用いられ、実質ともに芦別市のイメージとして広く浸透しています。

### 芦別市の現在

かつての基幹産業であった炭鉱文化を後世へ語り継ぐため、北海道空知総合振興局が事務局となり炭鉄港推進協議会（8市5町で構成）を立ち上げ、近代北海道を築く基となった三都（空知・小樽・室蘭）を石炭・鉄鋼・港湾・鉄道というテーマで結び、人と知識の新たな動きを作り出す取組を行っており、この取組が文化庁の選定する「日本遺産」として2019（令和元）年5月に認定され、新たな観光資源として、様々な取組を展開しています。

・炭鉄港ポータルサイト <https://3city.net>

・芦別市公式Youtube

日本遺産炭鉄港「芦別市の構成文化財」

<https://www.youtube.com/watch?v=zRsVi2aZEA>



上金剛山展望台から望む芦別市内



上金剛山展望台からの夜景



構成文化財：旧三井芦別鉄道炭山川橋梁

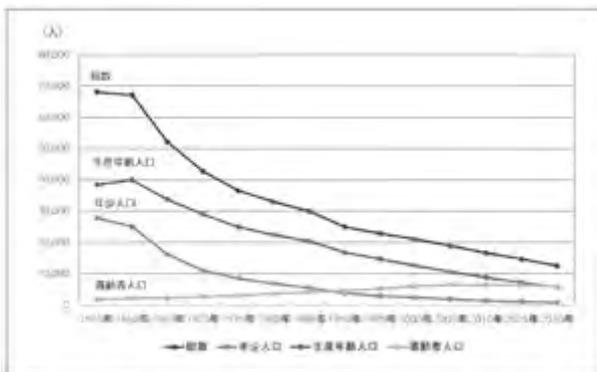
### 芦別市人口ビジョンの位置付け

人口の現状を分析することは、芦別市が直面する人口減少問題に関して市民・議会・市が共通認識に立ち、将来に渡って持続可能なまちづくりを推進するための将来展望を示し、その実現に向けた具体的な施策を総合戦略に掲げ、実践するための重要な基礎となるものであり、人口動向の分析、将来人口の推計と分析、人口の変化が将来に与える影響の分析と考察を行うとともに、市民の定住の意向や就労、結婚、出産、子育ての希望などの意識を把握したうえで、これらをかなえるために目指すべき将来の方向を示し、人口の将来展望を導き出すものとしています。

### 《芦別市の人口の現状と課題》

#### ・長期に及ぶ人口減少と少子高齢化の進行

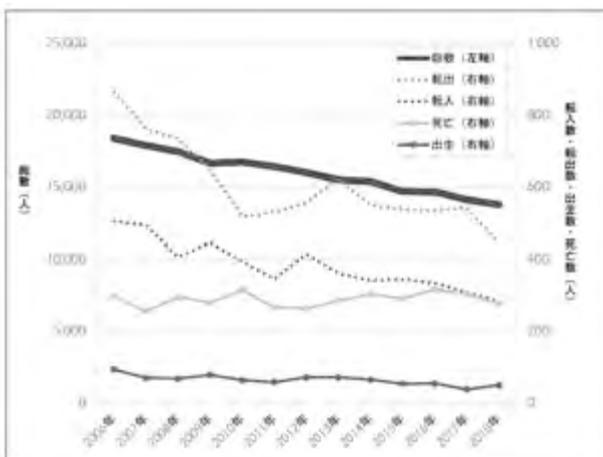
【人口推移 年齢3区分別】



※1990年以降に高齢者人口が年少人口を上回り、少子高齢化が急速に進行。

#### ・自然減・社会減の両面から人口減少が進行

【出生・死亡、転入・転出の推移】



#### ・札幌市、滝川市などへの人口流出が顕著

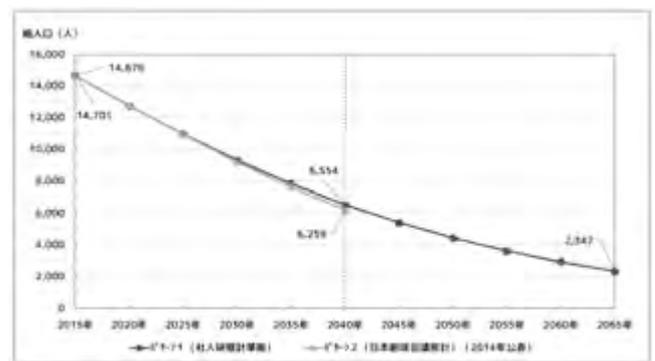
【周辺都市への人口移動状況（2018年）】



### 《将来人口の推計》

#### ・芦別市の将来人口推計と人口減少段階の分析

【総人口の将来推計】



※2040（令和22）年は、人口減少段階が「第3段階（高齢者人口の減少）」であり、2015（平成27）年と比較して、総人口が約45%まで減少すると推計。

### 《芦別市の将来展望》

人口減少の現状と課題を踏まえ、深刻な人口減少に歯止めをかけるべく、①若い世代が経済的に自立できる安定した雇用環境を創出し、地域産業を支えるために必要な人材を確保します。また、農林業の安定した経営や底上げ、担い手となる人材の育成と確保により、基幹産業の持続的発展を目指します。②地域の産業が求める労働力や人材の確保に向けた移住・定住を促進するとともに、本市に開校する特色ある教育機関の支援、観光や合宿事業の推進による交流人口の拡大により地域経済の活性化を図ります。③若い世代の雇用環境の充実を図りながら、安心して結婚・出産・子育てができる環境を充実するとともに、質の高い教育環境を整備し、定住を促進します。④市民が安心して暮らせる安全な地域の形成を目指し、市民の市外転出を抑

制します。と言った視点に立ち、4つの方向性を提示します。

4つの方向性

- I 「星の降る里・芦別」に安定した雇用を創出する
  - ・ 農業振興 ・ 林業振興 ・ 企業誘致、地場産業振興
  - ・ 雇用拡大、人材確保対策
  - ・ 再生可能エネルギー産業、次世代産業創出
- II 「星の降る里・芦別」への新しい人の流れをつくる
  - ・ 観光による交流拡大 ・ U・Iターン促進
  - ・ スポーツや文化を通じた交流拡大
  - ・ 高校、高等教育機関の支援
- III 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
  - ・ 結婚、出産、子育て支援 ・ 教育振興
- IV 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
  - ・ 高齢者にやさしいまちづくり
  - ・ 市民の安全、安心な暮らしを守るまちづくり
  - ・ 広域連携

第2期芦別市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、総合戦略）の概要

第2期総合戦略においては、人口減少と少子高齢化が進展する中であっても、将来にわたって持続可能なまちを目指すため、4つの基本目標を定め、この基本目標ごとに現行の総合戦略の検証や新たな視点を踏まえ、施策の基本的方向と具体的な施策を定めて取組ます。

【基本目標1】市内企業等における新規雇用者数

⇒5年間で200人

省力化技術等の導入による施設園芸の生産性向上と規模拡大や農産品の6次産業化等による農業の競争力強化、地域特性を活かした企業誘致や地場産業の振興による雇用の場の確保、新規学卒者やU・Iターン者の就業支援や求職者と企業のマッチング支援による人材確保、再生可能エネルギーや先端技術開発支援等による次世代産業の創出など、地域密着の産業である農林業や商工業など、様々な分野に魅力ある仕事の場を創出します。

- 農業の振興及び経営基盤の安定化
- 林業振興対策の推進

- 企業振興の奨励による地域産業強化の推進
- 新規学卒者の市内での雇用の拡大推進
- 再生可能エネルギーを活用した地域振興 など

【基本目標2】社会移動数（転入者数－転出者数）

⇒5年後に△100人

魅力ある観光イベントの推進や星空・雲海などの地域資源を活かした観光施設の充実及びスポーツや文化活動を通じた交流人口の拡大、首都圏での移住相談会の開催や情報発信体制の充実等による移住促進、専門学校や私立高校の学生確保対策など、地方への新しい人の流れを創出します。

- 観光地域づくりの推進
- 自然環境や地域特性を活かした移住・定住策の推進
- 合宿の里事業の推進
- 各種スポーツ大会等の招致
- 専門学校、大学による特色ある教育環境づくりの推進 など

【基本目標3】婚姻届出数

⇒5年間で150件

若者の出会いの場の創出による結婚支援、妊娠期から子育てまで切れ目のないサポート体制の構築、医療費支援や子育て世代の住み替え支援、保育環境の充実等、子どもを産み育てやすい環境づくりのほか、小中一貫教育や特別支援教育等の推進による質の高い教育環境づくりなど、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえます。

- 不妊治療支援の推進
- 医療費支援の推進
- 地域ぐるみの子育て環境整備
- 小中一貫教育の推進
- 特別支援教育の推進 など

【基本目標4】本市に住み続けたいと思う市民の割合

⇒5年後に50%以上

緊急通報システム事業や門口除雪事業の推進等、高齢者が安心して住み続けることができる環境づくりのほか、防災訓練や防災知識の普及・啓発による災害に強い環境づくり、市民生活を支える道路・鉄道等の交通ネットワークの構築、医療や福祉分野での広域連携の推進など、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指します。

- 緊急通報システム事業の推進
- 門口除雪事業の推進
- 防災知識の普及、啓蒙
- 中空知定住自立圏構想の推進
- 江別市内4大学と自治体連携による学生の地域定着の推進 など

#### 事例紹介（スポーツや文化を通じた交流拡大事業）

芦別市は、1998（平成10）年に全日本女子バレーボール合宿のホームタウンに認定されたのを契機として、スポーツ合宿の受け入れによるまちおこし「合宿の里構想」を立ち上げ、北海道内の学生や一般の競技団体をはじめ、実業団、国内外のナショナルチームまで幅広い合宿を受け入れてきており、なまこ山総合運動公園を中心としたスポーツ施設に、バレーボール、陸上競技、サッカー、野球など多くのスポーツ合宿の受け入れを行うとともに、スポーツ・文化を通じて関係人口、交流人口の増加を図り、官民一体となって市内経済効果への取組を推進しています。その中でも、実業団女子バレーボールチーム「JTマーヴェラス」は、コロナ禍の2年間を除き12年の長きに渡り、芦別で合宿を実施し、期間中は見学者への練習公開や空知管内の中学生を対象としたバレーボール教室も開催いただいています。

次に、公益社団法人全国野球振興会と共催のもと、全国の小学生野球愛好者を対象とした「ベースボールサマーキャンプ」は、参加者約150名が2泊3日の野

球キャンプを通して、技術の向上だけではなく、集団生活のルールや礼儀作法の習得を目指すものです。講師には本市の応援大使でもある元広島東洋カープの高橋慶彦氏をはじめとする元プロ野球選手に務めていただき、最終日には講師がそれぞれ監督となり紅白試合も行われます。

また、今後の交流人口の拡大、合宿の充実を図るため、新たな宿泊施設を令和2年度に整備し、一層の感染対策を講じながら今まで以上にスポーツや文化を通じたまちづくりを推進します。

#### 今後の施策の方向

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、経済活動や市民生活に大きな影響が生じているほか、国によるデジタル技術を導入した「新たな生活様式」の普及を進めたことにより、地方移住への関心が高まっています。このため、アフターコロナを見据えて、人々の生活意識や行動の変化を的確に捉え、人口減少の抑制と地域の活性化に向け、本市の特色を踏まえた効果的な各種施策を推進するとともに、4つの基本目標については、本市の人口・経済の中長期展望を示した「人口ビジョン」を踏まえ、「第2期総合戦略」の目標年次である令和7（2025）年において、市として目指すべき成果を数値目標として設定するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）の観点を取り入れることで、経済、社会及び環境を総合的に向上させ、地方創生の一層の推進を図ります。



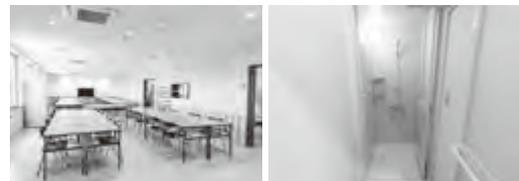
なまこ山総合運動公園内にある(上)総合体育館、(下)陸上競技場



実業団バレーボールチームによる芦別合宿



野球教室の様子



宿泊交流センター2号館

▶（参考）合宿の里・芦別の掲載HPページ

URL：<https://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/docs/5767.html>